

付表 2

診 療 用 高 エ ネ ル ギ ー 放 射 線 発 生 装 置 備 付 状 況

1 診療用高エネルギー放射線発生装置に関する事項

製 作 者 名	
型 式	
台 数	台
製 造 年 月 日	年 月 日

2 診療用高エネルギー放射線発生装置の定格出力

定 格 出 力	エ ッ ク ス 線	メガ電子ボルト
	電 子 線	メガ電子ボルト

3 診療用高エネルギー放射線発生装置の放射線障害の防止に関する構造設備の概要

発生管容器の漏えい放射線量が利用線すいの放射線量の 1,000 分の 1 以下となる遮蔽措置	有 ・ 無	
照射終了直後の不必要な放射線による被ばくを低減するための防護措置	有 ・ 無	
放 射 線 発 生 時 の 自 動 表 示 装 置	有 ・ 無	
出入口開放時の放射線の発生を遮断するインターロック	有 ・ 無	
移動して使用する診療用高エネルギー放射線発生装置の保管場所等	保 管 場 所	有 ・ 無
	閉 鎖 設 備	有 ・ 無

4 診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の放射線障害の防止に関する構造設備の概要

使 用 室 の 場 所	別添図面のとおり				
使 用 室 の 構 造	耐火構造・不燃材料・その他 ()				
使 用 室 の 防 護 物 の 概 要	区 分	材 料	厚 さ	放 射 線 防 護 に 関 する 措 置	
	天 井				
	床				
	周囲の遮蔽物等 (壁を含む。)	東 側			
		西 側			
		南 側			
		北 側			
出 入 口 の 扉					
監 視 用 モ ニ タ ー	有 ・ 無				

操 作 室	有 ・ 無
人が常時立ち入る場所における実効線量が1ミリシーベルト/週以下となる措置	有 ・ 無
出 入 口 の 数	通常口 所 ・ 非常口 所
出入口の放射線発生時の自動表示装置	有 ・ 無
使 用 室 の 標 識	有 ・ 無

5 その他の放射線障害の防止に関する予防措置の概要

放射線障害の防止に必要な注意事項の掲示	有 ・ 無	
管 理 区 域	管理区域である旨を示す標識	有 ・ 無
	管理区域への立入制限措置	遮蔽物（材質等： ）による区画、白線による区画、その他（ ）
	外部放射線の実効線量が1.3ミリシーベルト/3月以下となる措置	有 ・ 無
敷地内の居住区域及び敷地の境界	敷地内の居住区域及び敷地の境界における実効線量が250マイクロシーベルト/3月以下となる措置	有 ・ 無
放射線診療従事者等の防護措置	防護手袋（ 対）、防護エプロン（ 人分）、ネックガード（ 個）、防護メガネ（ 個）、防護衝立（ 台）、防護スクリーン（ 台）、その他（名称： 、数量 ）	
放射線診療従事者等の放射線測定器の保有状況	フィルムバッジ（ ）、ポケット線量計（ ）、熱ルミセンス線量計（ ）、OSL線量計（ ）、蛍光ガラス線量計（ ）、個人警報線量計（ ）、その他（名称： 、数量 ）	

6 診療用高エネルギー放射線発生装置を使用する獣医師の氏名及び放射線診療に関する経歴

氏 名	放 射 線 診 療 に 関 す る 経 歴

7 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号）第9条第2項第1号の許可年月日及び許可の番号並びに同法第34条第1項の規定により選任された放射線取扱主任者の氏名

許 可 年 月 日	許 可 番 号	放 射 線 取 扱 主 任 者 氏 名

注意事項

- 隣接室名、上階及び下階の室名、周囲の状況並びに管理区域である旨の標識の位置を明記した診療用

高エネルギー放射線発生装置使用室の平面図及び側面図を添付すること。

- 2 診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の平面図及び側面図は、診療用高エネルギー放射線発生装置の位置、発生管から天井、床及び周囲の遮蔽物の外側までの距離（メートル）並びに遮蔽物の材質及び厚さを記入した縮図とすること。
- 3 放射線診療に関する経歴は、獣医師が放射線診療に従事した年数、研修受講状況等を記入すること。